

## 新たに開催が決定したコンベンション

### XXII International Workshop on Low-Energy Positron and Positronium Physics and XX IV International Symposium on Electron-Molecule Collisions and Swarms (POSMOL 2025)

- ▶日 程 2025年8月7日(木)～2025年8月10日(日)
- ▶会 場 くにびきメッセ
- ▶参加予定人数 130人
- ▶内 容 POSMOLは、陽電子・電子・反物質と原子・分子・複雑系との相互作用に関する国際会議です。日本での開催は11年ぶりであり、世界各地から関連分野の研究者が松江に集い、最新研究成果の発表や議論を行います。

## 国際会議件数ランキング発表!!

ICCA (国際会議協会、International Congress and Convention Association) より、2023年に全世界で開催された国際会議の統計が発表され、国内都市別ランキングで、松江は13位、世界ランキングは332位となりました。日本は、世界国別ランキングでは、昨年の12位から7位にランクアップをし、アジア太平洋地域では1位を堅持しています。松江は、昨年より順位は落としましたが、今年も多く国際会議が予定されています。引き続き国内上位を目指し誘致活動を行ってまいります。

※出典：国際会議協会(ICCA)統計データより、日本政府観光局(JNTO)が日本語で作成  
※ICCAの国際会議統計の選定基準は、次の3つを満たすものです。

- ①参加者総数：50名以上
- ②開催期間：定期的開催（1回のみ開催した会議は除外）
- ③開催国について：日本を含む3カ国以上で会議のローテーションがある  
(2カ国間会議、政府系会議、国連主催の会議は除外)

### 国際会議開催件数 (国内都市別)

順位	都市名	件数	世界順位
1	東京	91	13
2	京都	41	52
3	大阪	20	116
	横浜	20	116
5	福岡	17	133
	札幌	17	133
7	仙台	15	150
8	神戸	12	184
9	名古屋	11	196
10	つくば	9	228
11	広島	7	270
12	富山	6	308
	松江	5	332
13	奈良	5	332
	新潟	5	332

## ●● Topics ●●

### 「名古屋(中部)＝出雲」線の新規開設・ 「静岡＝出雲」線の再開

(株)フジドリームエアラインズ(FDA)は、2024年3月31日(日)に、「名古屋(中部)＝出雲」線の運航を開始しました。また「静岡＝出雲」線の運航が再開しました。中部国際空港には国際線が19路線あり、出雲空港から海外への乗り継ぎも可能となります。出雲までは約1時間に到着しますので、東海地方からのアクセスがさらに便利になりましたので、ぜひ島根へお越しください。

### 新型「やくも」運行開始

出雲市駅から岡山駅の間を結ぶJR西日本の特急「やくも」が、4月6日より約40年ぶりに新型車両での運行が開始しました。新型車両は、宍道湖の夕日やたたら製鉄をイメージしたオリジナルカラーの車体となっており、新しい自然振り子方式を導入して乗り心地を向上させたほか、座席間を広くし、全席にコンセントが完備されています。島根で会議開催の際には、特急「やくも」の旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。

## くにびきメッセ関連情報

くにびきメッセに期間限定で「島根県産品お中元ギフトセンター」が開設されました。

お世話になった方へ、地元・島根県産品を送りたいという皆様の需要にお応えするための島根県の県産品に特化したギフトセンターです。島根県産品を直接ご覧いただきながら、お買い求め、発送いただけます。旬の果物やしまね和牛などのお肉、のどぐろやしじみなどの水産品、地酒や出雲そばなど、県内全域の幅広い県産品ギフトを取り揃えています。

期間は、6月1日から8月15日までの間、毎日午前10時から午後6時まで営業しています。

お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



## しまねの伝統工芸

### 奥出雲の玉鋼工芸品

世界で唯一、たたら製鉄が続いている所、島根県奥出雲町。

奥出雲を源流とする斐伊川。その上流、鬼の舌震を地質学の専門家と探訪しました。

上流は、急な流れと、大きく滑らかな岩、下流に行くに従って、緩やかな流れと小粒の小石や砂となります。

ここは主に花崗岩が占め自然の流れの中で砕かれていきます。この花崗岩から上質の真砂鉄が採れ、それが日本刀の原料となります。ところで、鉄と鋼の違いは何でしょう。一般的には鉄鉱石からコークスなどを使って、酸素を取り除いたのが「鉄」。鉄から更に炭素を取り除くと「鋼」になるのだそうです。鉄は硬く、鋼は弾力性に富む。炭素の含有量が「鉄」が2%以上、「鋼」は0.007%~2%とか。

そんな、上質な真砂鉄が採取でき、豊富な山林資源から燃料となる木炭も豊富な、たたら製鉄の条件に恵まれた奥出雲。江戸時代、「高殿」（製鉄設備を覆う大型建物）が設けられ、大型製鉄炉、天秤鞆（てんびんふいご）、床釣が整備され、鉄生産量が大きく増えました。江戸時代後半には、この地域が、国内総生産量の大半を占め、日本随一の生産地になります。

1885年（明治18年）、和鉄生産高が最高となり、中国地方が全国の96%、その内の46%を奥出雲地方が占めました。

しかし、明治の産業近代化による洋鉄の大量輸入で官営八幡製鉄所が本格稼働した時と、昭和の敗戦後の2度、たたら火が消えました。

伊勢神宮の式年遷宮に欠かせない刀を作る為に、人間国宝の宮入氏による文化庁への働きかけで、戦前に「靖国たたら」の製作場所となっていた施設を、公益財団法人日本美術刀剣保存協会が直接運営する「日刀保たたら」（文化財保護法第147条に規定された、「認定保存技術」に認定）として1977年（昭和52年）に復活させました。

この時弟子入りしたのが、当時製鉄技術者だった木原明さん。1986年には国の選定保存技術保持者として日刀保が村下に認定しました。（木原さんは本年6月22日に88年の生涯を終えられました。たたら製鉄の伝統的な技術を受け継ぎ支え、次世代に継承されましたご功績を讃え、心からご冥福をお祈りいたします。）

現在は、株式会社プロテリアル（旧、日立金属株式会社）が、操業に従事する人員の一部と原材料の確保など援助しています。次期村下の筆頭で地元出身の堀尾さんは「日本刀をつくるには玉鋼が不可欠です」と、伝統技術の保存伝承に意欲を持ち従事したいとのこと。みなさんの意欲でどうぞ、今後も永く伝統技術が継承されますように。



## お知らせ

### コンベンション情報誌「神々の郷」について

7月発行(vol.104)より、コンベンション情報誌「神々の郷」は当ビューローのホームページにて掲載をします。また、コンベンションスケジュールは賛助会員様限定にて公開をしています。ぜひ、ホームページよりご覧ください。

## 松江コンベンションビューロー 一般財団法人くにびきメッセ

〒690-0826 島根県松江市学園南1丁目2番1号  
TEL.0852-32-1903 FAX.0852-22-9219  
<https://www.matsue-cvb.jp/>  
E-mail : messe@sx.miracle.ne.jp



コンベンション開催  
支援に関する情報は、  
ホームページをご覧  
ください。